

第6回 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会 議事要旨

1. 日時：平成27年8月17日（月）14:00～16:00
2. 場所：中央合同庁舎8号館 5階 共用会議室C
3. 出席者
 - (1) 検討会委員
平澤座長、相澤委員、伊集院委員、岡崎委員、長岡委員、西澤委員、野路委員
 - (2) 内閣府
藤本沖縄振興局長、日下審議官、岡本総務課長、橋本事業振興室長、中嶋企画官、
新田専門官、原専門官、田原専門官、矢島専門職、小林係長
 - (3) 沖縄科学技術大学院大学
久保副学長、高梨副学長

4. 議事要旨

議事1 OIST ピア・レビューの結果について

議事2 その他

事務局（内閣府）から、平成27年7月にOISTが実施したピア・レビューの概要、結果について説明を行った後、委員から以下のような質疑応答があった。（○は委員の意見又は質問、→はOISTの回答）

- ピア・レビューの結果、OISTは「世界トップレベルの大学に伍している」という評価を受けているが、この「伍している」という意味は、今後、伍す可能性が高いという意味で捉えていいのか。
- レビュアーは、OISTが真に世界最高水準の機関になるには何十年と時間がかかると認識している。その上で、今回の卓越性を測る基準として用いられた8つの観点（資料1P8）で評価した結果、総体的に非常に高い評価を受けたと受け止めている。大学の教育研究、あるいは組織の非常に成熟したワールドクラスの大学を見る際に、この8つの観点だけで評価するわけではない。
- どこの大学でも産学連携が成功するには数十年という、かなり長い時間を要する。ピア・レビュー報告書において、知的財産を含む資金源等を多様化することが重要であると記載されているが、産学連携についての報告はほとんどない。これは、産学連携の成功に力を注ぐよりは、まずは傑出した研究大学としてのレベルを上げるべしというレビュアーのメッセージと解釈できるのではないか。
- OISTの論文共著者に、産業界の人が多い。その理由は、OISTがニーズをよく見つけ出して研究段階から産業界の人を入れているからか。
- OISTのミッションである科学技術の発展及び沖縄の自立的発展への貢献について教員も理解しているので、基礎研究を行いつつ、その成果を産業界もしくは地域で応用

できるところはないかという観点で産業界と協力することは多くある。

- OIST に2つのミッション（科学技術への寄与、沖縄の振興）があることを前提に研究者がリクルートされている。アカデミックな研究能力の非常に高い人が産業界に役立つようなことをやるとすれば、このようなことは自分の範囲でできるということを示す懐の深さがあり、これは重要なことである。
- 今回のピア・レビューで、OIST は領域の壁を突破して融合研究する、あるいは新領域を作るということが既に現れているということを示すことが重要ではなかったか。
- レビューerは全論文のリストを見ており、特にインターディシプリナリーなものがどれだけ OIST の研究室で生まれているかということの評価していると思う。
- 今回の評価に、OIST の特質、OIST が目指している特質に見合って優れているという説明をさらに付け加えれば、より説得力がある。
- OIST は、日本の大学と比べてかなり違うといわれるが、日本の大学とどのように違うのか、日本が今進めている政策と大学との関係、あるいは研究テーマと比べて OIST はどのように違うのかを比較表を作るなどして今後説明してほしい。
- 世界では新たなイノベーションの種になるようなものが分野を超えないと出てこない状況になっているが、OIST は学科や専攻、研究科の壁が一切ない組織であって、新たなものをゼロベースから作り出せる環境になっている。
- 今後、OIST が 100PI（教員）になったとき、これが OIST だという姿をどのような形で見せるのかを議論する必要がある。
- OIST が沖縄に何をするかという視点も大事だが、地域が OIST の活動をどう受け止めて、OIST にどういう要望をプライオリティーをつけて提案していくかを考えてまとめることが、結果として沖縄振興に寄与するのではないか。
- 今回のピア・レビューの結果は、OIST を強化していく、その第1歩の着手を進めてもよいことをサポートするデータになっている。来年度の OIST 予算については、第4研究棟の建設費を含めて概算要求するということが問題はない。

(以上)